

いたる、或は多少模様が変わつたものか知れぬ。
云々はか後から彦元と云ふいろいろの手法かなかつた
ではない。しかしこれの工作如何にか、わらす、懇談
の處置は、大局から見て必要のものであつたであろうと
思う。殊に連合軍内にも米ソ間などに微妙な國際關係か
あつたようであるし、解散後後述するようによつてコーエン氏
の言葉だとエ鮎澤氏等によつて傳えられたところ、ま
た勞働遊行にまで發展したところから顧みると、コ
ーエン氏が懇談の終りに「この計畫はすでに九ヶ月も遅
れで方々」といつたように、協調會の運命は、大局にか
けて既定のルカだつたと考えられる。本日出
掛けに豫感した「解散の報告」は的中した。云々て性

格の改造」、「新團體の設立となつて的中したのであつた。
(三)「解散理由書」の徹回　コウエン氏との懇談後種々
の曲折を経て理事會及び評議員會で解散を決議し、六月
廿八日にコーエン氏を訪問して報告した。同氏は「この
難事と短期間に成し遂げた貴下のシンセアリティーを感謝
する」と堅く握手し、罐入りのピーナツを振舞つて人
形狀。しかしこの場面は、八月七日の會見で暗轉するこ
ととなつた。元來は八月七日に、添田會長桂學園理事長
及幼余はコーエン氏を訪問して挨拶したが、その際余は
解散決議の議案に添附した「解散理由書」(英文)を示
した。云ふは解散に處する大協調會の立場を最後に明かに
しておきたかったからである。氏は同文の終りの方を讀